令和7年度第1回総合教育会議議事録

(要 旨)

開催日 令和7年7月2日(水) 15:00~16:56

開催場所 名寄市民文化センター 音楽スタジオ2

出席者 市長 加藤 剛 士
教育長 岸 小夜子
職務代理者 高橋 雅樹
委員 松田 潤子
委員 中枝 子介
委員 北野 裕介

事務局職員 総合政策部長 石橋 毅寛
総合政策課長 瀬野 友生
教育部長 伊藤 慈 渉
学校教育課長 土井 平子
主幹(指導主事) 久保 竜房 也
主幹付主査(指導主事) 大沼 卓清 人
社会教育課長 堺 田 弘志
智恵文公民館長 吉原 武 穰
児童センター館長 小笠原 野 浩
教育相談センター長 柴野 田 彦
図書館長 安田 卓 恭
北国博物館長 金田 上 文
天文台長 村 上 文
天文台業務係主任 渡 辺 健 (欠席)
(代理)

傍聴者 0名

議 事 本市の社会教育における青少年健全育成の取組について

会議録（要旨）

1 開 会 午後3時00分

2 市長挨拶

3 議 事

※設置要綱第4条の規定により市長が議長を務める。

(1) 本市の社会教育における青少年健全育成の取組について

〔議 長〕

社会教育の部署で行っている青少年健全育成の取り組みについて、取り組みの現状、課題などを踏まえ、子どもたちの居場所に関して意見交換をできればと思う。

児童センターの老朽化が進み、今後の施設の在り方が議論されている。図書館を含む複合的な公共施設の設置についても様々な議論があり、社会教育の現状を踏まえて再編を進める大きな機会となっている。あわせて、名寄市の財政は大変厳しい状況であり、相当の行財政改革を進めていかなければならない。事業の効率化、統合、地域への委任を考えていかなければならない段階にある。こうした状況を踏まえ、委員の皆さんから意見をいただきたい。

(委 員)

児童センターを農繁期に利用したことがあるが、利用可能時間が午前と午後に分かれているので、送迎に時間がかかり利用しづらかった。そういった面でへき地に住んでいる子どもは利用が難しいと思われる。3、4年生くらいになれば公共交通機関に乗っていくことも考えられるが、低学年だと難しいので、送迎面の対応があればよいと思う。

〔議 長〕

午前中だけでなく午後も通しての利用が可能であればと思うが、現状はどうなっているのか。

(児童センター館長)

児童センターは午前と午後に区切った利用となる。館内での飲食はできないため、午後も利用したい場合は、昼食時に一度帰宅し、再度来館する必要がある。

長時間の利用を希望する方は、児童クラブを利用してもらうことになる。夏休みだけの利用も可能。

(委 員)

現代の子どもはインターネットを介した遊びが増えているが、「わくわく！体験交流会」などの体験活動は記憶に残る貴重な経験なので、そういった機会が頻繁にあれば良いと思う。

(委 員)

放課後子ども教室は「第三の居場所」として始まり当初は人気があったが、開催場所が児童センターに限られたため利用が偏る課題があった。今回の文化センターへの移転は前進であるが、保護者に利点が十分伝わっていない。安価で体験学習や学びの広がりがあり、中学生にこそ活用してほしい事業である。しかし、保護者の送迎が必須のため、移転後も参加が難しい家庭が生じる懸念がある。

(児童センター館長)

令和2年頃までは中学生も募集していたが、人数が集まらないため、中学生の募集はしていない。送迎については、教室の終了が午後6時15分のため、春や秋口だと暗くなってしまうため、子どもの安全面から送迎をお願いしている。

[議長]

この事業は、第三の居場所としての価値は高いが、ニーズとの乖離があり検討の余地がある。送迎がネックならば、各学校の一面を借りて実施できないか。

(委員)

閉校した学校など既存の場所を使用することも可能では。

(委員)

以前、名寄小学校で「ちょこっと先生」をやっていたこともあるので学校での実施は可能だと思う。放課後子ども教室については、期末テスト前だけの利用を可能にするなど、もう少し条件を緩和すれば、より多くの子どもが参加できると思う。事業開始から15年が経過しているが、新しく再生できる事業だと考えている。

(委員)

子どもたちや保護者が魅力的と感じる内容に変えられないか。例えば、ALTが4人に増えるのであれば英語に特化した授業を増やす、簡単な料理教室を行う、あるいは音楽に触れる授業を取り入れるなど、塾的なものではなく、幅広い分野に触れられる場として、子どもや保護者に宣伝するのはどうか。

(委員)

図書館については、滝川市のように大きなものを一つ作るまちもあれば、街中のいろいろな場所で貸し借りできるまちもある。どこかに集中すると人を運ばなければならなくなる。必要性があれば仕方ないが、インターネットやタブレットを活用し、名寄市内全域で多様なニーズに応えられるよう、1度ゼロから考える必要があると思う。

(教育部長)

市長のお話の通り、厳しい状況にあるため、本当に必要かどうかから考えるべき。特に放課後子ども教室は、必要性を改めて検討し、必要でないならやめるという判断も含め考えていかなければならない。

(委員)

「選択と集中」を考えるのであれば、これまでの事業効果は一旦脇に置き、喫緊の課題である部活動改革に注力して取り組むべきである。

(委員)

市民の意見や必要性をどう汲み取るかが課題。子どもや保護者の声を把握するには、どの方法が効果的か。

(委員)

アンケートを取ればよい。

(委員)

アンケートは作成側の意図に誘導されやすいため、実施する場合はその点を慎重に精査する必要があると感じる。

(委員)

身近なPTAや学校運営協議会など、学校単位で意見を集めることは可能。小学校中学年、高学年は子ども自身が主体的に動くため、小学3年生以下に対してどのようなプランが必要となるのかが重要だと思う。

(教育長)

放課後子ども教室は15年経ち、環境の変化に対応するため見直しが必要である。子どもや保護者の声を丁寧に聞き、多様な子どもが自分らしく過ごせる居場所を、行政・地域・学校・民間と連携して整備することが重要。放課後子ども教室のリニューアルや教育相談センターや児童クラブを残しつつ、その他事業の再検討も含め、教育委員の皆さんのアイデアをいただきたい。

[議長]

子どもたちの声については、今年3月の第3期名寄市子ども子育て支援事業計画策定時に、小中学校からのきめ細かなアンケートで把握しており、居場所や相談相手についてなどのほか、自由記載にも参考になる記載があった。今後、ソフトの再構築や、必要に応じてハード整備も含め、政策を進める上でのアイデアをいただきたい。

(委員)

児童会や生徒会を通じて、学校生活上のニーズや意見を集められれば、子ども達自身の生活について、主体的に考える機会になり良いと思う。また、「親が不在時に友達を家に入れてはいけない」というのは一般的な考え方か。現代は、放課後は親が家にないのがデフォルトなのか、その辺りの現状がわからない。

(委員)

一般的な感覚としては、親がいて安全が確保されている状態であれば友達を呼べるというのがある。

(委員)

子どもの居場所を考える際、それを決めていくメンバーは現状を共有しておく必要がある。今の小中学生の家庭でのルールなど、大まかに把握しておきたい。

(委員)

アンケートのほか、小学校高学年なら学級会で「名寄市にこういう居場所が必要か」のようなテーマで議論するなど、本音を引き出しやすい方法で意見を吸い上げるのもよいと思う。

[議 長]

放課後子ども教室など、学校が拠点になり得ると考える。人手の確保については、教育委員会だけで難しいのであれば、地域住民の協力が必要ではないか。

(教育長)

全国では、放課後に空き教室や地域の会館を活用し、地域住民が学習支援を行っている事例がある。地域の実情に応じて、子どものニーズに合った居場所を地域発で作る仕組みが必要である。

(委 員)

「わくわく！体験交流会」のような活動が、家庭で体験することができない子どものために実施している事業であれば必要だと思うが、その点についてどう考えているのか。

(社会教育課長)

多世代交流を通じて子どもが刺激を受ける場を作ろうと考え、高校生ボランティアの参加も進めてきた。現代の子どもにとって、提供プログラムが必要なものか疑問もあるが、体験交流会をきっかけに教職志望者も出るなど一定の需要があり、今後は委員の意見も踏まえ、プログラム内容の妥当性を検討していく必要があると思っている。

(委 員)

参加者の人数が少ないからといって廃止するのではなく、名寄市の子ども達は体験格差が非常にあると感じており、家庭で体験できない子たちのために、自治体が用意できる体験事業は可能な限り実施していただきたい。

[議 長]

自衛隊には、名寄市の自然の楽しみ方を知っている人が大勢いる。キャンプのイベントも行っており、とても人気がある。

(教育長)

現状、各部署のイベントは単発での案内のみだが、自衛隊など他機関のメニューも含めた年間のメニューを提供できれば、参加の仕方も変わると考えている。横の連携での情報収集は難しいが、子ども自身が選べる形での提供が望ましい。

[議 長]

現行事業の合理性、効果検証や教育委員会と市長部局との連携による居場所づくりなど、施策への反映について課題としていただいたので、継続して庁内で問題意識を持ち、組織運営や事業のあり方に留意したい。今年は総合計画策定もあり、図書館や児童センターなどについて教育委員の意見も踏まえ具体化を進めたい。また、先のアンケートを教育委員に読んでいただき、子どもたちの現状等の把握をしていただきたい。

(委 員)

今回はあまり重点的に取り上げなかったが、学校に行っていない子どもの居場所づくりが最も重要だと思う。引きこもりではなく、教室には入りたくないが勉強は続けたいなど、子どもの多様なニーズに応じた支援が求められる。現状を把握した上で、こうした子どもへの支援に焦点を当て、より掘り下げた議論が必要である。

(教育長)

不登校の子どもの居場所や放課後の交流活動の場所など、居場所全般を総合的に考える必要がある。多様な子どもたちを含め、どう支援するかを考えなければならない。

次回、他自治体の取組事例など、情報収集していただき、具体的なアイデアを固めていただけるとありがたい。

[議 長]

大変貴重な意見をいただき、ありがとうございました。

以上を持ちまして閉会とさせていただきます。

4 閉 会 午後 4 時 5 6 分